

令和3年度第1回 横浜能楽堂指定管理者選定評価委員会 会議録

- 1 日 時 令和3年5月20日（木） 11時10分から12時10分まで
- 2 場 所 市庁舎会議室18階 なみき18
- 3 出席者 横山 太郎 委員長、芦澤 美智子 委員、足立 文 委員、諸貫 洋次 委員
- 4 傍聴者 なし
- 5 議事内容

| | |
|----------|---|
| 議 題 | <ol style="list-style-type: none"> 1 定足数の確認 2 委員会の公開・非公開 3 面接審査 <ol style="list-style-type: none"> (1) 提案者プレゼンテーション (2) 提案者に対するヒアリング 4 本審査 <ol style="list-style-type: none"> (1) 応募団体欠格事項等の確認について (2) 審議及び採点 |
| 議事・委員意見等 | <ol style="list-style-type: none"> 1 定足数の確認 委員数4名のうち4名の出席により定数を充足しており、会議の成立を確認した。 3 本委員会の公開・非公開について 横浜市の保有する情報の公開に関する条例第31条及び横浜能楽堂指定管理者選定評価委員会運営要綱第9条に基づき、「面接審査」は公開、「本審査」は非公開とした。 4 面接審査 提案者による提案書のプレゼンテーションの後、委員による質疑を行った。 <主な質疑応答> (以下「・」: 委員、「→」: 提案者) ・第4期で行うチャレンジは何か。今置かれた状況において、どんなチャレンジをしていくのか →今までは使ってこなかった言葉として、「市民に信頼と期待を寄せられる」という言葉をあえて入れた。地域の方、市民の方にとって、横浜能楽堂の存在がどういうものであるかということについて考え、見学会や、能楽以外の形でのワークショップなどで市民の方に来ていただくということを強調している。こういう状況にあわせて、オンラインでの見学会や公演の配信など、デジタルコンテンツの充実に挑戦していく。 ・デジタルコンテンツについて、内部の人材で行うのか外部と協力して行くのか。 →技術的なことは、外部委託をしないとできないが、職員の人材育成の観点もあり、まずは自分たちで企画を立て、外部に協力を得る。デジタルコンテンツの助成金も充実しているので、助成金の提案書をしっかりと作成しながら、外部の協力者を見つけるスキルも、磨いていく。 |

・体制づくりや人材育成について、過去 15 年を踏まえて、これからの展望を伺いたい。

→発足当初は、職員のジョブローテーションのようなものはあまり決まっていなかった。この 10 年で、経験も踏まえながら、ある程度の年齢になったら、専門分野で、研さんを積ませるため固定化する形の職制の考え方になった。ハイブリッドというか、生え抜きの職員と、財団の中のほかの施設の経験がある職員の考え方も取り入れながら進めていくことは、大きな強みの 1 つと考える。

・デジタルコンテンツに関して、有料動画配信、ライブ配信などは検討中か、それとも進んでいるのか

→今は何とか公演ができていますので、公演を安全に予定どおり行うということに注力している。配信については、引き続き調整、調査をしていく。

感染症の問題だけではなくて、文化施設として幅広い方に情報を届ける方法として、映像を使えば、客席以上のお客様に横浜能楽堂の催しを届けることができるので、併せて検討をしていく。次期を通じて何らかの形をつくっていききたい。

ただ、有料化はすぐには対応が難しい。

・柿山伏プロジェクトはとてもよいこと。学校で実際に使っているとか、どのように授業をやっているとかということまでのフォローアップはおこなっているのか。

→現状は、そこまで行っていない。配信動画の 5 万回の視聴についても、視聴している人の属性等は分からないが、視聴数が伸びている時期が、柿山伏の単元を学校で取り上げている時期とリンクしていた。

・デジタル化について、提案者である（公財）横浜市芸術文化振興財団で包括的にやっている部署があるのか。スケールメリットを活かし合理的に行える体制は整っているのか。

→現状、そのような体制ではないが、情報の共有等は行っている。

・人材育成について、次の世代のプロデューサーの育成はどのような取組を行っているのか。能楽界の人たちとの顔つなぎ、交流を持っているのか。

→いろいろな方と交流してきた、それを企画に生かしている部分もある。今後、さらに磨いていきたい。

・有料配信について、技術が進んでいるので、独自のシステム構築より、様々クラウド型のサービスを検討した方が良いと考える。エンターテインメント業界全体で進んでいる流れの中で、どのように情報収集をしているのか。

→助成金の情報は財団本部から連絡が来る。配信については、すでに検討を始めている。能楽界において有料配信をやっている団体にヒアリングを行った。

・今後、どのようなプロデューサーになっていきたいか

→今まで能は、企画も壮大で、グローバルな視点で大きなことをやってきた。今後は、今まで能を知らなかった人や、興味はあったけれども、あまり見たことがなかった人に興味を持ってもらえるような企画や、鑑賞初心者の人が、レベルアップしていただけるような、説明を加えたような公演を行いたい。また、これまでとは別の視点から新たな能の面白さを発見できるような企画なども行いたい。

5 本審査

(1) 提案者について、提案者の欠格項目のうち、市税等の滞納がないこと及び暴力団又は暴力団経営支配法人等ではないことが確認された旨を事務局から報告。

| | |
|-------------|--|
| | <p>(2) 提案書類及び面接審査の内容を踏まえ、委員による意見交換、各評価項目の採点を行った。</p> <p>【審査結果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・提案者：公益財団法人横浜市芸術文化振興財団 <p>総得点655点／800点（委員4名×持ち点200点）</p> <p>なお選定要項に、指定候補者となるためには、選定評価委員会の定める最低基準点（評価基準項目の合計200点満点の6割以上）を満たすことが必要である旨の記載があり、4名全ての委員の採点がこの基準を満たしていることを併せて確認した。</p> |
| <p>審議結果</p> | <p>提案者：公益財団法人横浜市芸術文化振興財団を指定候補者として横浜市長に報告する。</p> <p>なお、審査結果及び講評は、本日の意見を集約し、委員長確認のうえ報告書にまとめる。</p> |